

新任教員研修参加者への追跡調査結果報告書

(公財) 大学コンソーシアム京都
FD 企画研究委員会
FD 調査・研究チーム

はじめに

本調査は、(公財) 大学コンソーシアム京都が 2010 年度より実施している新任教員 FD 合同研修を修了された教員に対してその効果検証及び現在どのような研修、サポートを必要とされているかについて確認し、新任教員 FD 合同研修の効果測定及びプログラムの改善、後継研修の企画について検討する材料とすることを目的として実施しました。なお、本調査は放送大学 I C T 活用・遠隔教育センター (旧メディア開発教育センター) の WEB アンケートシステム REAS (リアルタイム評価支援システム) を利用して実施しました。対象は平成 22 年度～平成 26 年度までの 5 年間に新任教員 FD 合同研修を受講した 92 名となり、大学コンソーシアム京都 FD 事業事務局より対象者に受講時に登録されたメールアドレスに対して WEB アンケートへの協力依頼を送信した。設問内容は基本属性のほか、研修の役立ち度、現在求めている研修内容などとなっています。

1. 基礎データ

【回答者数】 31 名 (有効対象者 88 名* : 回答率 35.2%)

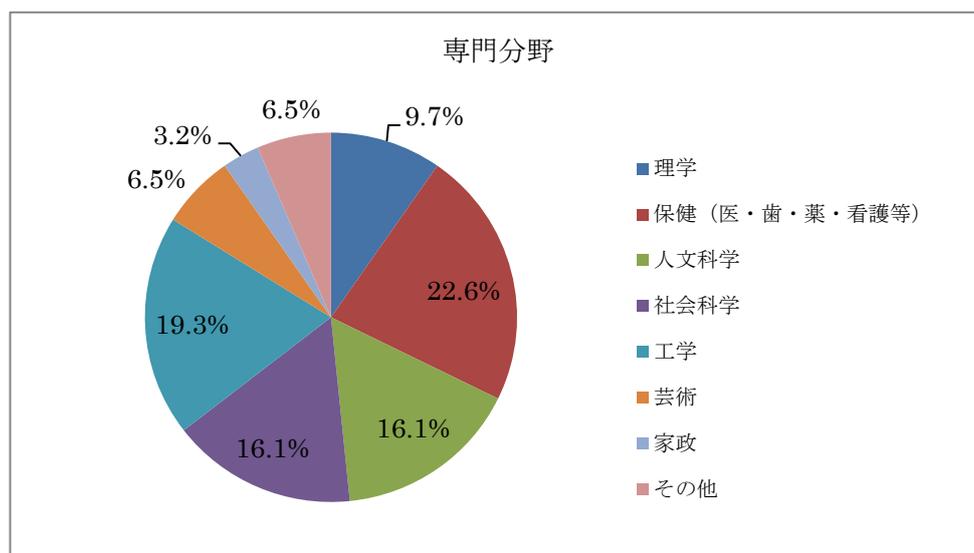
*アドレスエラーなどで未着の 4 名を除いた数字

【平均教員歴】 6.5 年

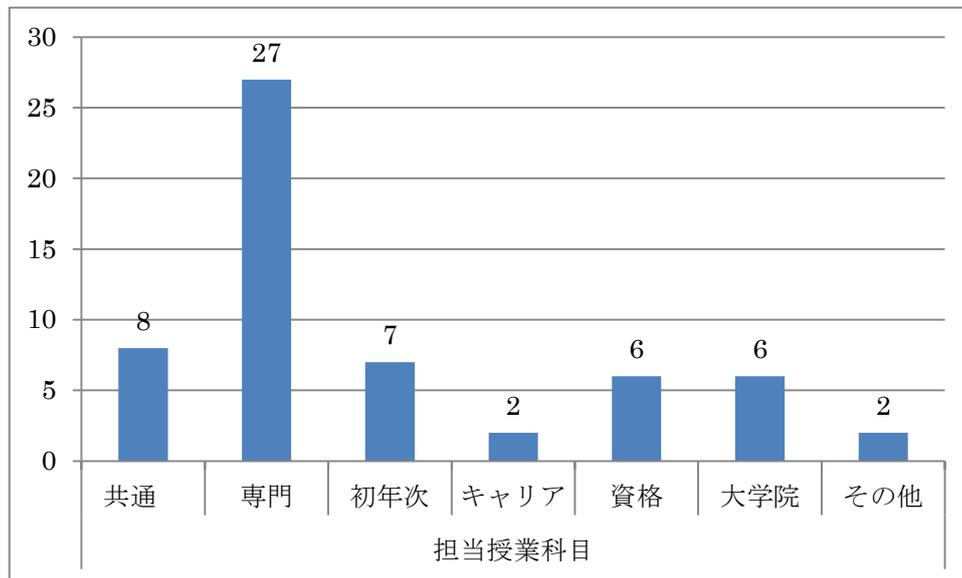
【年齢】 29 歳以下 2 名 (6.5%)、30～34 歳 7 名 (22.6%)、35～39 歳 5 名 (16%)、40～44 歳 7 名 (22.6%)、45 歳～49 歳 4 名 (12.9%)、50～55 歳 4 名 (12.9%)、55 歳以上 2 名 (6.5%)

【性別】 男性 14 名 (45.2%)、女性 17 名 (54.8%) (対象者数では 41 : 47)

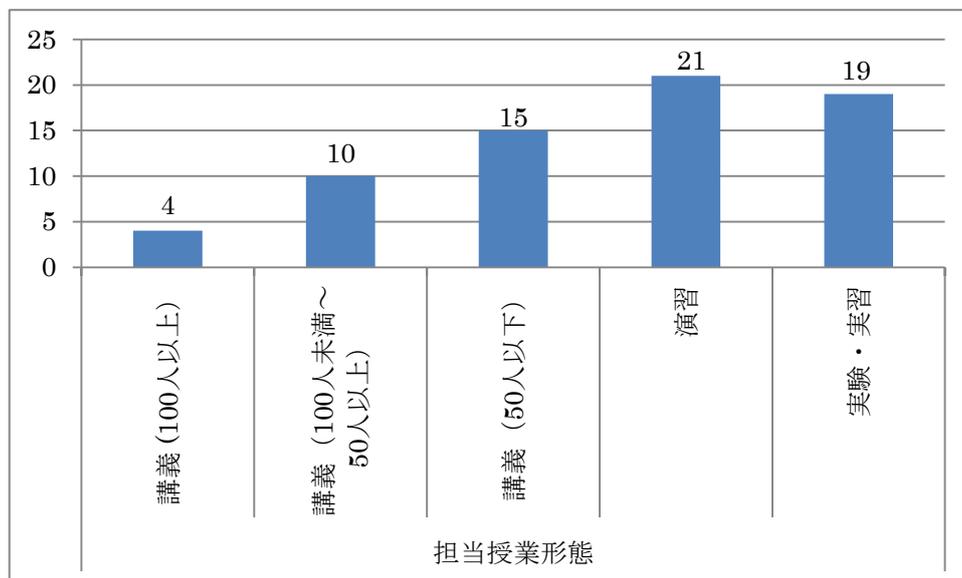
【専門分野】 人文科学 5 名 (16.1%)、社会科学 5 名 (16.1%)、理学 3 名 (9.7%)、工学 6 名 (19.3%)、教育 0 名 (0%)、家政 1 名 (3.2%)、芸術 2 名 (6.5%)、農学 (農・林・獣医・畜産・水産等) 0 名 (0%)、保健 (医・歯・薬・看護等) 7 名 (22.6%)、その他 2 名 (6.5%) (体育学・図書館情報学)



【担当授業科目】 語学 0名、 共通 8名、 専門 27名、 初年次 7名、
 キャリア 2名、 実験・実習 0名、 資格 6名、 大学院 6名、
 その他 2名



【担当授業形態】 講義（100人以上）4名、 講義（100人未満～50人以上）10名、
 講義（50人以下）15名、 演習 21名、 実験・実習 19名

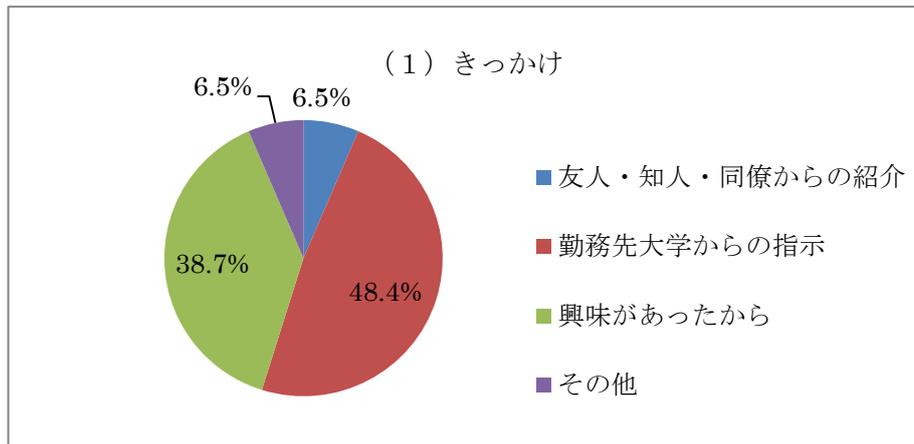


2.質問事項（定量項目）

(1)新任教員 FD 合同研修プログラムに参加したきっかけは何ですか？

友人・知人・同僚からの紹介 2名（6.5%）、勤務先大学からの指示 15名（48.4%）、興味があったから 12名（38.7%）、その他 2名（6.5%）

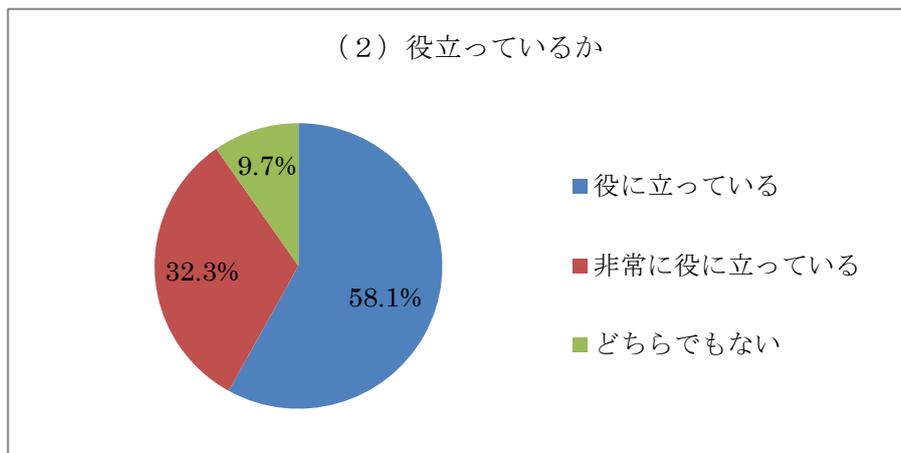
ほぼ半数が「勤務先大学からの指示」により参加している。一方で「興味があったから」の主体的な参加動機を持つ参加者も約40%となっている。



(2)新任教員 FD 合同研修プログラムは今の教育活動に役立っていると思いますか

役に立っている 18名（58.1%）、非常に役に立っている 10名（32.3%）、どちらでもない 3名（9.7%）、役に立っていない 0名、あまり役に立っていない 0名

回答者の約9割が「役に立っている」、「非常に役に立っている」と回答している。事後アンケートにおける研修内容の満足度の高さだけでなく、研修後の実際の教育活動の改善につながったと実感していると言える。



(3) 受講されたプログラムのうち、どのプログラムが役立っていると思いますか。

<複数回答可>

大学のまち・学生のまち京都 0名 (0%)

アイスブレイク 5名 (16.1%)

授業設計のための基礎知識・ワークショップ 18名 (58.1%) *

学習支援・学生支援のための基礎知識・ワークショップ 12名 (38.7%)

学習者中心の授業運営のための基礎知識・ワークショップ 16名 (51.6%)

授業設計のためのワークショップ 15名 (48.4%)

授業実践ワークショップ 12名 (38.7%) *

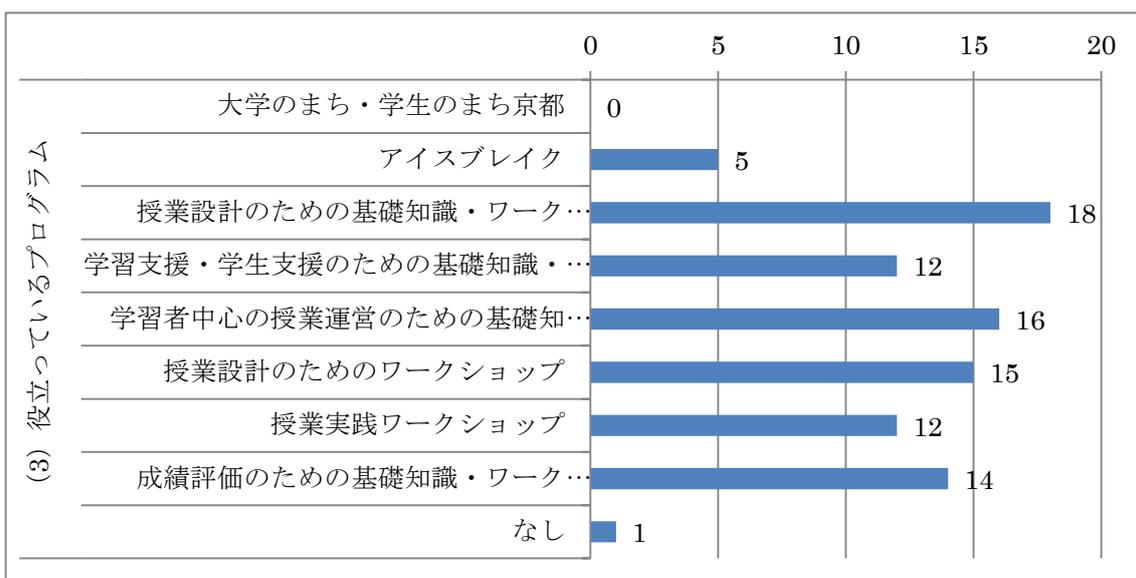
成績評価のための基礎知識・ワークショップ 14名 (45.2%)

なし 1名 (3.2%)

*「授業設計のための基礎知識・ワークショップ」は到達目標を意識したシラバスの書き方に関するレクチャーとワークショップ、「授業設計のためのワークショップ」は「授業実践ワークショップ」のための授業の教案を作成するワークショップになる。

特にシラバスの書き方・見直しを行う「授業設計のための基礎知識・ワークショップ」と実際の授業運営に活用できる知識や技術に触れる「学習者中心の授業運営のための基礎知識・ワークショップ」については半数以上が役立っていると考えている。その他、「学習支援・学生支援のためのワークショップ」、「授業設計のためのワークショップ」、「授業実践ワークショップ」、「成績評価のためのワークショップ」のいずれについても40%前後の参加者が役立っていると回答している。

その一方で「大学のまち・学生のまち京都」については役立つと感じた回答者がいない現状を踏まえ、大学コンソーシアム京都の活動概要を説明するという現在のコンテンツの見直しの検討が必要である。



(4) 印象に残っているプログラムまたはこんなプログラムがあればよかったと思うものがあれば教えてください。〈自由記述・抜粋〉

- ・プロの講義（動画など）を見て、何が優れているのか、どのような工夫をしているのか、についてのディスカッション
- ・成績評価については、担当者の評価のスタンスによって、実際の評価が異なることを意識させられた。シラバスの書き方。特に、具体的に何をねらいとして、どのようなことを、学生に習得させるかなど、学習全体のマップ（授業設計）を、ワークショップで学べたのは良かった。
- ・加盟大学の構成からいうと文系授業科目用の印象があった。理系ではどうなのかなというのあれば受けてみたい
- ・授業目的と成績評価を関連付けるべきであるという内容が一番印象に残りました。
- ・自分のシラバスを持参して、他の先生方からご意見を頂戴したのがとても良かったです。自分と同じ専門であれば気が付かない点をご指摘いただき、気づくことができました。
- ・シラバス作成の際のルールや注意事項を丁寧にお聞きすることが出来たのが、それを見る学生さんの視点など理由を含めて、丁寧にお聞きすることが出来たのが特に印象深く残っています。また、他分野の先生方とのディスカッションも印象に残り、充分長い時間をいただいていたにも関わらずすぐに過ぎてしまった感じがしました。
- ・他の先生方が実際の教室でどんな講義でどんな工夫をされているのか、学生たちはどんな反応を示すのか、実際の活動を見学したいと思いました。
- ・単位の時間数の考え方、評価の基礎知識が貴重な学びでした。マンダラートを書いてみて、学生の現状から授業も実習指導も目標に向かって、内容を精選してかかわっていくことの大切さを実感できました。
- ・シラバスの書き方は習ったことがなく、他の先生のを参考にしたことが多いのでとても勉強になりました。

(5) 現時点で教育活動に関して受けてみたいと思う研修はどのようなものですか？

（複数回答可）

プレゼンテーション 10名（32.3%）

シラバスの書き方 7名（22.6%）

成績評価 14名（45.2%）

授業運営方法 19名（61.3%）

板書 10名（32.3%）

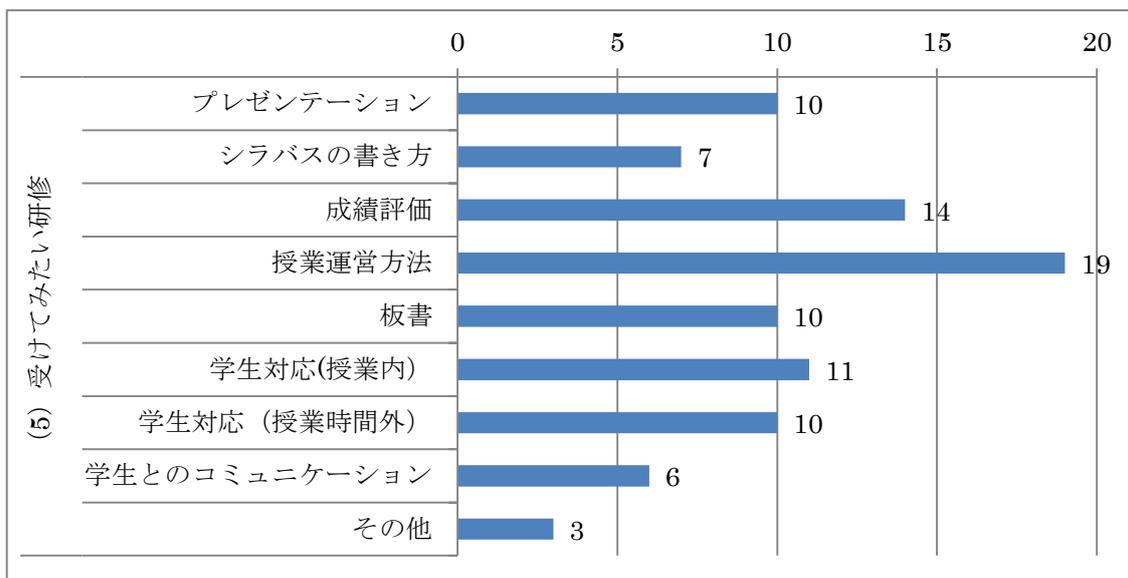
学生対応(授業内) 11名（35.5%）

学生対応（授業時間外） 10名（32.3%）

学生とのコミュニケーション 6名（19.3%）

その他 3名（9.7%）

6割の回答者が「授業運営方法」に関する研修を受講したいとの回答を寄せた。次いで「成績評価」への関心が高い。



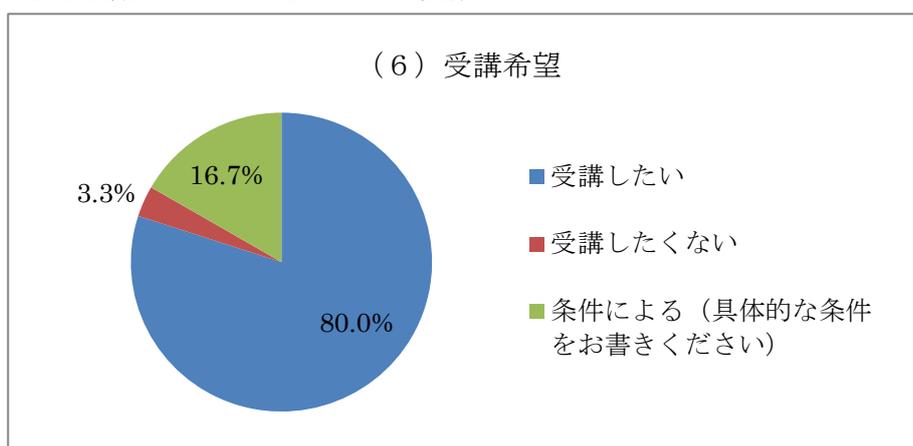
(6) 上記のような研修がコンソーシアムで実施されていれば受講したいと思いますか？

受講したい 24名 (80.0%)

受講したくない 1名 (3.3%)

条件による 5名 (16.7%)

- ・時間が許せば
- ・都合が合えば
- ・英語による授業のための研修があれば受講したい



約8割の回答者が、(5)で回答した研修内容であれば研修受講を希望すると回答している。

(7)実施形態はどのようなものを希望しますか？ (複数回答可)

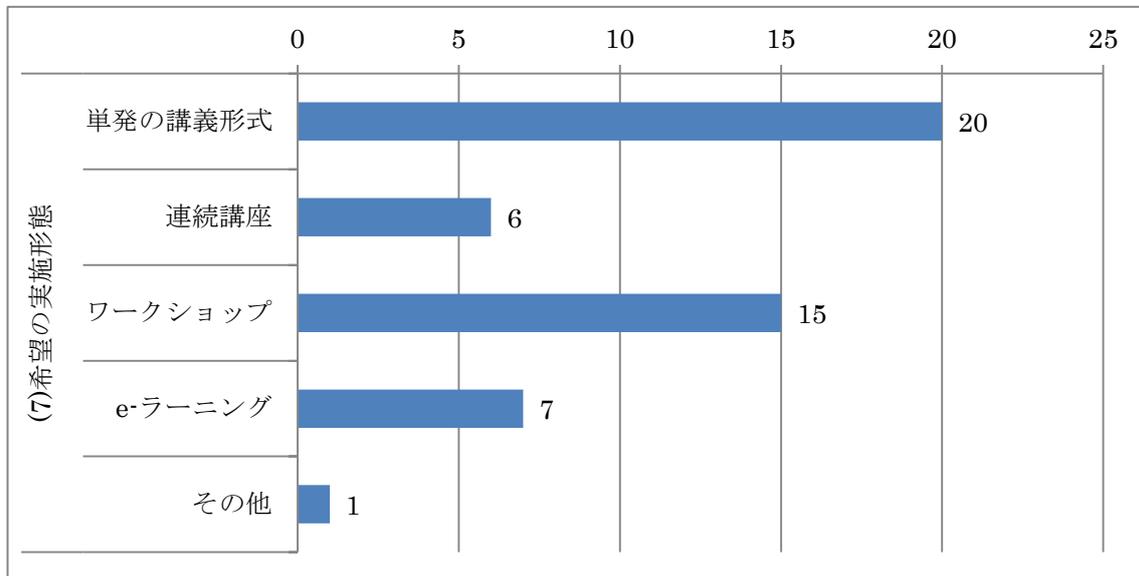
単発の講義形式 20名 (64.5%)

連続講座 6名 (19.3%)

ワークショップ 15名 (48.4%)

e-ラーニング 7名 (22.6%)

その他 1名 (3.2%)



実施形態としては「単発の講義形式」や「ワークショップ」を希望する回答が多かった。

(8)現在のご自分の教育活動に関する悩みや課題についてご自由にお書きください。

<自由記述・抜粋>

- ・英語で授業をできるようになることが課題です。
- ・グループワークで、積極的な参加をしない学生への対応についてどう働きかければよいか。メンバーシップの育て方が難しい。
- ・科目間連携
- ・複数教員が担当する科目での担当者の共通理解
- ・教材、教具の活用
- ・講義授業で、学生に「楽しい」と感じて受けてもらえるようになりたい。
- ・ゼミの論文指導（1年間のゼミで実習での欠席もある中、論文の形にするための指導が十分にできていない。）
- ・学生のモチベーションをどうやって上げていくのが課題だと思っています
- ・教員間の能力や価値観の違いが大きいなかで協力して働くことに難しさを感じています。
- ・学力差のある学生たち全員に満足してもらえるにはどうしたらよいのでしょうか。

[新任教員研修参加者への追跡調査結果のまとめ]

対象者 88 名に対して実施した WEB アンケートで 31 名（回答率 35.2%）からの回答を得た。全体的に 1.5 日×2 回実施された「新任教員 FD 合同研修」プログラム A/プログラム B の各研修の役立ち度に対して非常に高い評価をつけている。具体的な調査項目においても内容について現在の教育活動に「役立っている」「非常に役立っている」という回答が 9 割を超え、プログラムの質としても一定の水準が提供されていると評価できる。

ただしプログラムのうち、「大学のまち・学生のまち京都」については当財団の活動を伝えるだけのコンテンツからいかに参加者にとって当財団が活用できる団体であるのかが伝わるコンテンツへのリニューアルが求められる。

研修についても一定のニーズが確認できる。特に「授業運営方法」と「成績評価」に関する要望が高いので、これらを念頭に置いた企画立案を、今年度立ち上がった「大学教育パワーアップセミナー」で取り扱っていくとともに、修了生、参加者に対して新任教員研修の次のステップの FD 研修として積極的に広報を行っていくこととしたい。

以上